

すぐそばに本があるっていいですね

ある有名な作家が「これまで何冊くらいの本を読みましたか？」と尋ねられ、「800冊か900冊くらいだ」と答えたそうです。質問をした人はその数が予想より少なかったため、大変驚いたそうです。このエピソードを管 啓次郎さんという人は「読むことの濃度はそれぞれであり、“冊”という単位には意味がない」と言い切っています。管さんは詩の読書について「1行が心をとらえることがある。1行がきみを変えることもある」と著書の中で述べています。今、本を読むとき、書店や図書館に足を運ぶだけでなく、電子書籍など無数の本に出会うことができます。私は電子書籍が苦手な専ら書店にいき、時間をかけてゆっくりと楽しみながら本を選びます。本の読み方は人それぞれで、「何を」「どう読むか」も人によって違うことと思います。「1冊の本を10回読む」こともよいでしょう。読む時の自分の環境・心境・年齢によっても読み方が変わってくるでしょう。「10冊の本を読む」こともよいでしょう。それは本によっても違うかもしれません。「座右の銘」という言葉がありますが、「座右の書」となる本をお持ちの方がいらっしゃるかもしれませんね。読書は言語力を身につける近道であると同時に、創造力を高めるためにも大切であると思います。「本を読みなさい」と言われて読めるものではありませんので学校では図書館司書や図書館ボランティアの方がたくさんの知恵を出しながら環境整備をいただいています。また、おはなしのへやの方々が1・2年生の児童を対象に定期的に読み聞かせをいただいています。4月23日は「子ども読書の日」。子どもたちが、心から本を読む楽しさを感じ、将来、自分の心を動かすような1冊に出会えることを願っています。

校内サポートセンターについて



様々な理由で学校に登校できない児童は全国的にも増加しつつあります。また、学校に登校するものの教室に入ることによって不安を感じる児童も近年、増えつつあります。そのような子どもたちがまずは学校というところに慣れ、安心して過ごせるように校内サポートセンターという教室を作りました。ここでは、担任が用意した簡単な学習を行いながら、職員とコミュニケーションを取ることを優先しながら対応していきます。昨年より校内サポートセンターを設置していましたが、今年度は机やパーテーション、ちょっとした備品の整備やルールづくりを職員がアイデアを出しながら、積極的に進めてくれています。登校したい、教室に入りたいけど不安で入れない…我が子も小学校時代そうでした。今も感覚が過敏で人の視線に苦しんでいます。ですから、子どもや保護者の方の気持ちはよくわかります。登校できない児童や教室に入ることによって不安を感じる児童が一時的にこの場所が少しでも安心感の基地となり、近いうちにまた自分の学級に元気に戻っていただけることを願っています。